

平成30年度

広報広聴常任委員会 行政視察報告書



平成31年2月4日～6日

(埼玉県寄居町・東京都多摩市・広報研修)

広報広聴常任委員会行政視察

1 期 日 平成31年2月4日（月）～6日（水）

2 視察先 埼玉県寄居町議会、東京都多摩市議会、広報研修

3 行政視察の目的

広報広聴常任委員会では、定例会ごとに年4回発行している議会だよりの編集や校正を行っている。これまで二次元コードの活用や特集ページの作成等、市民の皆様がより読みやすく、市政や議会に興味を持っていただけるよう取り組んでいる。しかし、現状としては、文字の多さやレイアウト等からも、市民の皆様が手にとりやすい紙面としては、もっと改善を求められていると考えている。先般、受講した広報クリニックでも、市民目線を重視すべきとの意見をいただいたことから、議会だよりのリニューアルを検討している。

そこで、全国町村議会議長会広報コンクール最優秀賞の受賞やリニューアルを行った議会の先進事例を学ぶこと、また、民間の取組等から意識啓発を行うため調査研究に臨んだ。

4 視察・研修内容

(1) 埼玉県寄居町議会 視察内容「議会だよりの編集について」

ア 寄居町概要

人 口 33,843人（平成30年4月1日現在）

面 積 64.25km²

議員定数 16人

議会広報広聴特別委員会定数 8人

委員構成 2常任委員会から4名ずつ選出

委員会開催回数 1発行当たり3回

議会広報誌発行回数 各定例会後、年4回

発行部数 13,000部（町広報と同数）

配布先 町内全世帯（区長を通じて登録された配布枚数による）

関連団体（埼玉県町村議会議長会・近隣自治体・図書館等）



寄居町広報広聴特別委員の皆さん

イ 議会だよりの表彰や研修

全国町村議会議長会広報コンクールへ平成20年度（第23回）から出展

- ・平成25年度（第28回）奨励賞「編集・デザイン部門」受賞
- ・平成26年度（第29回）入選 優良賞（第7位）受賞
- ・平成28年度（第31回）入選 優良賞（第6位）受賞
- ・平成29年度（第32回）入選 最優秀賞（第1位）受賞

埼玉県及び全国町村議会議長会等の議会広報研修・広報クリニックに参加

ウ 議会だよりの特徴

- ・統一テーマを定めた表紙シリーズなど、多くの住民に登場いただいている。
- ・読みやすく、新たな切り口で議会や審議内容を伝える特集企画
- ・次ページの記事紹介や用語解説（一口メモ）など親しまれる工夫
- ・議員個人の議案に対する賛否結果の公表
- ・町の広報誌が「結果」をお知らせするのにに対し議会だよりは「経過」をお知らせするよう住み分けを意識



エ 読まれる議会だよりのポイント

◎読み手側に立ったわかりやすい広報に

- ・結果だけではなく、討論や質疑といった審議経過を掲載し、議会の活動内容を分かりやすく伝える。
- ・議会だよりは、議事録ではない。町民にとって関心が高い情報は何か、議会が伝えなければならないことは何かを考え、企画記事や優先議案を検討する。
- ・記事は簡潔な表現で、表記は常用漢字を原則とし、平易な用字・用語で文体は統一する。読み手を第一に考える。



◎見出し、写真を見ればわかる広報に

- ・見出しはできるだけ大きく、記事の内容がわかりやすく、簡潔でインパクトのある表現とする。
- ・写真は1記事に1枚以上掲載するように努め、写真とキャプションは、記事の補完だけではなく、伝える内容を端的に表すものを選ぶ。紙面によっては写真が主となることもある。
- ・一般質問の議員写真は、できるだけ動きのあるものを使用する。

◎町民参加の広報に

・議会や町への提言として、町民の声を積極的に掲載する。議会の視点もあわせて掲載し、一方通行にならないよう努める。

・インタビュー記事「VOICE」や特集記事のコメントなど、町民が登場する紙面づくりに努める。

※4年前から登場した町民を KOE METER でカウント



← 表紙に掲載

平成30年9月定例会号時点で322人



【主な質疑】

問 町民の写真や意見は、前もって登録等をしている方が掲載されるのか。

答 前触れなく議員の飛び込み取材で掲載している。

問 作成にあたって業者の関わり方はどうか。

答 正副委員長会議、編集会議すべてに業者が関わっている。

議会事務局の経験もあり、行政、議会に精通した専門家の集まる業者で、企画アイデア等をいただくことも多い。

問 町民の写真は肖像権の配慮等をどう行っているか。

答 議員の飛び込み取材は、議会全体として企画や意図を明確にして、取材用腕章をつけて16人の全議員で行っている。取材前に了解を得ることとしているので今までトラブルはない。

問 一般質問の原稿について、校正はどの程度行われているのか。

答 原稿は、タイトルの変更以外は、ほぼそのまま掲載している。ただし、一般質問の占める割合は減らしていくべきと考えている。一議員がどう考えているかより、議会としての内容を充実させるべきである。



問 レイアウトは基本の形があるのか。町民の方の反応はどうか。

答 レイアウトは基本の形はなく記事内容や写真に合わせて、委員全員の目で確認し同席の業者が即時に修正をかけている。アンケートをとると議会の情報を議会だよりで得ているという方が約80%である。取材が待ち遠しい。知人が載っていたなどの声も日々いただくようになってきている。

(2) 東京都多摩市議会 視察内容「議会だよりの編集について」

ア 多摩市概要

人口 148,654人 (平成30年4月1日現在)

面積 21.01km²

議員定数 26人

編集委員 5人

委員構成 議会運営委員会の下部組織として
各会派から1名ずつ選出

編集会議開催回数 1発行あたりおおむね6回

議会広報誌発行回数 各定例会後、年4回

発行部数 72,500部

配布先 全戸配布 (シルバー人材センターへ委託)

関連団体 (市内公共施設・他市議会・国立国会図書館等)



多摩市議会の皆さん

イ 議会だよりリニューアルの経過

- ・平成27年から議会運営委員会で準備
- ・平成27年に議会運営委員会内で「議会だよりプロジェクトチーム」立ち上げ
- ・平成28年に「議会だより編集会議」を設置
- ・議会運営委員会内で平成29年から市議会だよりの紙面リニューアルを確認
- ・平成29年5月5日号(213号)からリニューアルした議会だよりを発行



ウ 議会だよりリニューアルの内容

どのような紙面を読みたいかアンケートを取り市民の声を反映させる形で行った。

- ・題字デザインの変更
 - ～ リニューアル感を出す。市民公募により認知度アップ!
- ・サイズの変更
 - ～ A4版に変更し紙面を増やす。手にとりやすく、配布しやすく!
- ・レイアウトの変更

- ～ より見やすくする。表紙写真を大きく
市民と議会のページを設置、毎号特集の掲載など!
- ・掲載する写真を一般公募する ～ 市民に身近な広報誌!
- ・一般質問の掲載形式を変更
 - ～ Q&Aに統一。わかりやすく伝える!
- ・市民と議会のページを設ける

～ 「読みもの」としても魅力ある媒体!

「市民と議会がつながる」をコンセプトに毎号を4つの
常任委員会と議会運営委員会が交代で紙面づくりを担当



【主な質疑】

問 作成や編集にあたって議員の役割、業者との作業割合はどうか。

答 編集委員のなかに、雑誌の作成編集を生業としていた議員がいて、自前の編集ソフトで原案を作成してきてくれる。業者にアイデアをいただく部分もある。



問 配布方法がシルバー人材センター委託となっているが、配布時期のずれ等は生じないのか。

答 自治会加入者への配布形式をとっている自治体が多いが、多摩市では主な住居形態が団地ということもあり、自治会組織が形成されていないところも多い。また住民の約7割は同じ地域に集中していることもあり、1日で配布は完了している。

問 一般質問の原稿は、各議員から提出されたまま掲載しているのか。

答 以前はそのまま掲載していたが、統一を図る取り組みを始めている。内容は事務局でチェックしている。

問 目の不自由な方へ、議会だよりの翻訳CDの作成をされているが、作成に至った背景や予算はどうか。

答 ボランティアのNPO音訳グループに協力をいただいている。30人ほどの市民から希望があり、配布している。ボランティアではあるが、活動最低限の委託料はお支払いしている。

問 霧島市では子どもでも読める紙面を目指して、作成したいと考えていると思うようにいってない。紙面イメージに対しての考え方はどうか。

答 対象年齢は考えていない。地域の新聞などを発行している団体と意見交換会を実施した。

(3) 広報研修

ア 講師 株式会社 電通 コーポレートコミュニケーション局
イ 内容 多くの市民に関心を持ってもらえる議会だよりの作成について
(意見交換方式)

【意見交換の内容】 委・・・広報広聴常任委員 電・・・講師の電通

委 文字数やレイアウトを工夫したいが、行政用語等どうしてもわかりにくい。注釈をいれるが、文字が多い紙面になってしまう。

電 相手がほしい情報を、相手の気持ちになって考えることが基本である。議会の内容を友人や家族に話すとき専門用語は使わないと思う。普段の会話を意識するとよい。

電 スポーツ飲料水のメーカーでは、以前は成分表示を前面に伝えていたが、今は、「スポーツをすることも応援している」または「その家族を応援している」といった企業イメージを前面に出した広告に変わってきている。議会だよりも内容を網羅しすぎると、なにを伝えたいかがぼやけてしまう。

委 伝えたい情報に対して、どの程度のリサーチ、準備をしているのか。

電 思い込みにならないための現状把握、類似のものを多く見て検討する。いいと思ったことは、どんどん取り入れてほしい。

電 徹底的にリサーチするが、いかに多く情報を集めたかではなく、方向性を決めて、自分たちが伝えたいこと、相手がほしいことをまとめることが重要なので、リサーチしたことの99%は表にでてこない。



(株)電通の皆さん

電 網羅した情報は、Web 上において、紙面では伝わりやすく簡潔に作るというのではないか。

委 霧島市はすべてを議員がゼロから作っている。いいものを取り入れたくても、知恵も技術も未熟なのだがどうすればいいか。

電 相手に伝える技術としてデザインは重要である。簡単には習得できないと思う。段組みに縛られて作成していて、伝えたい部分がわかりづらい印象がある。割り切った情報を絞ることも必要ではないか。



委 正しい情報を伝えたいという一方通行のイメージがある。市民を多く登場させて一緒に市を盛り上げようといった交流の見えるものがないのではないか。

電 あらゆるジャンルの雑誌や企業パンフレットなど多く見るべきである。会議に気になる記事レイアウトなど持ち寄るのもいい。

5 委員所感



広報広聴常任委員会 委員長 徳田 修和

寄居町の議会だよりは、編集会議に業者も同席しているとのことで、臨機応変な段組みやレイアウト構成が行われており、プロの力を感じた。委員長からの「議会だよりは、議員がどれだけ苦勞しているかではなく、読み手がいかに読みたくなるものが作れるかが重要。読みにくい紙面を議員が苦勞して作っています程度なら発行する意味がない」との言葉は耳が痛く感じた。本市で編集に業者を加えることは現状難しいが、記事の文字数の在り方、写真の多用など見直すべきである。また、委員の研修においても積極的で、広報誌のコンテストにも積極的に応募し、広報誌クリニックなどの研修も多く参加していた。発行をどれだけ重ねて慣れがでてきても、より良いものをつくるための研鑽は欠かさないとのことであった。

多摩市では特集記事として、議会の活動を多く掲載していた。多摩市議会では閉会中の議会活動も多く、内容には事欠かないとのことであった。本市の議会だよりも、議連の活動や常任委員会の所管事務などのボリュームを多く掲載できないか検討すべきである。

両議会を通して気付かされた点は、議会側からの情報発信だけではなく、市民と議会双方の交流がみえ、市民が議会だよりをより身近に感じられる形態であったことである。本市の議会だよりも取り入れていくべきだと感じた。特に寄居町では、すべての議員が閉会中に地域に飛び込み取材を行い、町民の声を多く掲載しており、町民もその取材がいつ自分のところに来るか待ち遠しいとの反応もあるとのことで、議会だよりと住民の距離感に感銘を受けた。

株式会社 電通との研修では、デジタルメディア、インフォグラフィックの重要性を指摘され、いかにシンプルに読み手のほしい情報が整理できるかがポイントであり、まずは「何を伝えたいのか」家族に話すように、難しく考えずに普段の生活をイメージして作成したほうが良いとのアドバイスを受けた。レイアウトや表現の知識の為、良いものも悪いものも、より多く見て、良いと感じたものは積極的に取り入れるべきとのことで、高校生との意見交流や委員会開催時に雑誌を持ち寄り研究するなど、すぐにでも取り組むべきである。

広報広聴常任委員会 副委員長 前川原 正人



寄居町では、住民の皆さんに「議会だより」を読んでもらう取り組みとして「表紙のテーマを決めていたが、マンネリ化してきたとのことから「途中の57号から『よりの人』と題して、議会と住民が双方向で住民が登場することで「だより」が身近になったとのことであった。また、「議会だより」との題名ではなく、「お元気ですか、寄居町議会」とK O E M E T E R（声メーター）（町民の登場回数）を掲載し、住民がどれだけ登場したかを掲載していることは、「議会は住民の声を聴きたい」とのアピールしていることを学ぶことができた。また、議案の説明についても、「～について」ではなく、その特徴的な内容を紹介し解りやすくしていることがみてとれた。特に執行部と議会の関係では、「議会が提言し、そのことが予算にどう反映されたのか、決算での検証（提言→予算→監視→決算）の「議会発 政策 サイクル」の循環で市民目線の取り組みが行われていた。また、そのことを「だより」に反映させることで、住民が町政に関心を寄せることに力を入れているのではないかと思う。

多摩市では、タブロイド判からA4サイズにリニューアル変更した。大きな理由として、（タブロイド版では集合ポストに入れづらいことから）各公民会を介しての配布から、シルバー人材センターに変更することが理由であった。また、「だより」のリニューアルに際して、「各党派・会派」が「読んでもらえる議会だより」にとの共通認識の立場に立ちに努力していることであった。特集記事としては、「予算・決算」は行政の大きな節目としてとらえ、その時々の問題を「特集記事」としていた。

目の不自由な方への「だよりの広報」として、ボランティア団体が「声の議会だより」を30名に供給していることであった。

電通による「議会だより」に関する研修では、議会側の情報を載せるだけでは、相手（市民）は見てくれない。相手が欲しい情報を読み手の立場で作成することが大切である。そのためには、「良い広報誌、悪い広報誌」を、よりたくさん見ることで「良いものを選んで参考にする必要があるとのことであった。しかし、「市民が見たくなる議会だよりの作成」には、より綿密な調査、徹底的なリサーチが必要であることを改めて気づかされた。読者の目を引くために、「見出し」は一番目立つ場所に掲載することであるが、「インフォグラフィック（視覚で見ると興味を持たせること）の手法を、広告宣伝として取られており、これを「議会だより」に置き換えると「市民のために役立つこと」が大切で、「紙面の余白、写真、配列」などあり方が大切とのことであった。

霧島市議会の「議会だより」の作成も、号を追うごとに良くなっているとは思いますが、たくさんの各自治体の「だより」を検証する必要があり、少しずつでも、学んだことを取り入れる必要があると感じた。また、市内には、市立高校が存在しており「高校生が読みた

い、議会だより」と題して、生徒の皆さんから意見を聞く機会があればよいのではないかと思います。



広報広聴常任委員会 委員 山田 龍治

寄居町での視察では 町村議会広報全国コンクール最優秀賞受賞、第13回マニフェスト大賞 特別賞 受賞をされており、議会広報委員のメンバー、また議員全員の広報に対する意識が非常に高いと感じました。広報誌は以前に確認しており、最新版も研修の際いただき拝見しましたが、まず見やすさ、視覚効果のある写真掲載、すべての構成が「素晴らしい」の一言でした。寄居町の委員長の言葉で「読み手の気持ちを考える」これがやはり基本であることを忘れてはいけないということです。

特に表紙に「声メーター」というものがあり、これは委員会がテーマを決めた後に議員全員が市民の皆様取材をし、氏名、顔写真、取材内容の了解を得て議会だよりに登場した数が掲載しており、議会が市民の皆様を巻き込んで作成しているところが取組として面白いと感じました。また、製作段階の委員会、業者、議会事務局の役割分担もしっかり分けられており構成に関しては委員会にも同席してプロのアイデアをいただきながら作成している点は良い部分であると思いますが、霧島市の広報誌とは1枚あたりのコストが約3倍かかっていますので、この形は理想ではありますが現実的に難しいため、我々がスキルを上げること、また積極的に広報誌のサロンなどに提出をしてアドバイスを求めながら改善をしなければならないと思います。

寄居町でも試行錯誤をしながら現在の形になったということで、その改善したいという高い意識が必要であると感じました。我々広報広聴委員会も私自身もチャレンジしながら多くの市民の皆様より評価をいただけるような広報誌作成に努めようと思いました。

多摩市は、平成29年に広報誌のリニューアルを行い、市民の皆様より評価をいただいているということで視察に参りました。広報誌の配布方法を新聞折り込みから、シルバー人材センターへ依頼をした全戸配布に変更したためサイズを変更することに併せて紙面の内容を大幅にリニューアルされておりました。

どこの自治体の広報誌もページを多く使う部分が一般質問であり、霧島市でも紙面の多くの部分を使用しています。多摩市も最新号の一般質問では26名中議長を除いた25名がされており、そこが紙面の多くを占めておりましたが、コンパクトにまとめており見やすくなっておりました。その手法として、議員の全員にフォーマットを決め込んだ文書作成の依頼をしており、霧島市も文字数制限は設けていますが、ある一定のフォーマットを決めることにより紙面が見やすくなるのではと感じたところです。

多摩市も、試行錯誤しながら市民に向けて見てもらう改善をされており、霧島市でもそのアイデアを活かしていければと思いました。

電通さんとの研修会では、専門家の視点から霧島市の広報の問題点について掘り起こしをしていただきました。私自身は、構成やデザインについての意見を求めましたが、意見交換をしていくうちに問題点はそこではなく、日頃からの他自治体の広報の情報収集、雑誌、その他広報出版物などにアンテナを張って良いものを取り入れていく私自身の意識改革であると気づかされました。また、市民の皆さんにも参画していただくような工夫や取組が新しい可能性を切り開くのではとアドバイスもいただきました。

視察を通じて感じたことは、読み手の皆様の視点に立って紙面を作る、現状把握のための調査研究、個々の意識改革とスキルアップの必要性を感じました。今後、視察の経験を踏まえて市民の皆様にとってももらえるような議会広報に努めて参ります。

広報広聴常任委員会 委員 松枝 正浩



埼玉県寄居町

読み手側の視点、見出し・写真の活用、町民参加を重視
議員自らが取材し、市民が登場することで、身近な紙面づくり
企画段階から委託業者も同席し、議論に参加
予算から決算を監視し、次年度における市政への提言

東京都多摩市

議会だよりのロゴを市民から公募
特集、身近な人、写真を活用し、読み物的な感覚
常任委員会と関連のある団体との意見交換会の掲載
アンケートによる市民の声を聞き、意見反映の努力

電通との意見交換会

徹底的なりサーチ、良いもの、悪いものを見る【参考にする】
高校生からのアイデア、市民目線が大事、手に取りやすく興味をもつ
見せ方が大事、紙面の配置、メリハリの工夫が必要

読み手の立場 ➤ 紙面の工夫 ➤ 手に取りたくなる広報誌
出来ることから即実施！政策提言を行うことの必要性を実感！



広報広聴常任委員会 委員 川窪 幸治

お元気ですか？で始まる議会だより、全国の奨励賞デザイン賞を1回、優秀賞を2回、平成29年度に最優秀賞を受賞の寄居町議会だより、委員の方々の説明にも自信があふれて引き込まれるように読んでしまう議会だより、啞然とした。

構成は、プロの方との話し合いで行われているが、市民目線を第一に考えており、議会のことをより分かりやすく、精査されたものになっていました。まずは、文字数が少なくしてあり簡潔に最小限の文字数です。写真もふんだんに使われてなによりも、動きのある写真使用が素晴らしかったです。分かりにくい行政言葉にはしっかり説明がされていました。一番驚いたのは、住民のみなさんがたくさん議会だよりに参加されていて愛されている議会だよりと思われました。また、議会だよりに掲載するためではなく、日頃から、各委員会活動が盛んで地元の高校生等の話や学校との連携で行われるイベント・議員との意見交換会など積極的に活動をされていました。

この経験を現在の霧島市の議会だよりに活かしていけるのかを委員全員で話し合いを重ねて市民の皆様読みやすい・分かりやすい・市民目線の議会だよりを作りたいと思います。

広報広聴常任委員会 委員 愛甲 信雄



2月4日から2月6日にかけての視察の中で、各市町議会等の編集委員との意見交換ができた。そのなかで、霧島市議会だよりについて、市民に気軽に手にとってもらい、また、内容に興味を持ってもらえる紙面づくりの改善点のヒントを得た。編集委員の「市民に手に取ってもらい、読んでもらえないものは議会だよりではない」という言葉が強く胸に刺さりました。しかし、議会だよりの性質上、あまり内容が幼稚になってもいけない。そのことについては、スポーツドリンクで例えていただいたが、「成分の微妙な調整」が重要なのだと思う。これからは、霧島市民参加型の議会だよりを作っていけばよいのではないかなと思う。



広報広聴常任委員会 委員 阿多 己清

寄居町議会での所感

- ① 議会広報紙の編集方針として、読み手に立ったわかりやすい広報、見出しの工夫、多くの写真を掲載し見ればわかる広報などを掲げていた。広報紙の形式では3段組みを基本とし、いろいろな形式を取り入れ、字体も少し大きめで、とても見やすい紙面になっていると感じた。
- ② 町民の方々を多く掲載し、議会に関心を寄せてもらう工夫も感心した。名前、顔写真、コメントの3点セットで、これまで町民、322名の方々を掲載した、そのための取材も担当する委員のほか、多くの委員外議員が動いているとのことだった。
- ③ 写真撮影や記事等は委員が担当するが、委託の専門業者が毎回編集会議にも同席し、レイアウトなどを中心に、業者がかなり深く関与しての紙面づくりとなっていた。
- ④ 県や全国での研修参加や専門的な分野における広報紙クリニックにも多く取り上げてもらうことで、紙面づくりの改善につながっていると感じた。

多摩市議会での所感

- ① 広報紙の紙面づくりは編集会議の委員、5人が担当していた。議会運営委員会の下部組織とあったが、正式な委員会ではなかったため、委員の処遇や公務災害等への対応が気になった。
- ② 町内会や自治会等加入世帯など問わず、全市民に対して、シルバー人材センターに委託しての配布が行われていた。全世帯に配布ができていることはいいと思った。
- ③ 以前の会社で経験豊富な委員長が広報紙の素案を作っている。これは心強いと思った。

(株)電通の方々からの指摘事項等

- ① 現在の議会だよりは、行政、議会特有のわからない言葉が多い。多くの情報を知らせたいと思うのか文字が多すぎる。写真が少ない。
- ② 見出しや写真でのインパクト、文字もメリハリをつける。全部知ってもらいたいではなく、結論だけの紹介でもよい。中学生、高校生にもわかるような内容で、ポイントだけでもよい。
- ③ 段組みを変えて読ませる工夫をする。スペース、余白を活かす。写真も大胆に活用する。
- ④ 何を知ってもらいたいのか、市民目線で作成していく。いい情報誌は大いに参考にする。

広報広聴常任委員会 委員 有村 隆志



広報広聴常任委員会の行政視察において、各関係機関の皆様にご協力をいただき感謝申し上げます。とともに、更なる議会だよりの研鑽に努めてまいります。

今回の寄居町では、紙面づくりの当初から業者が入った企画会議が行われていました。また、委員が研修などに出向いての研鑽・改善に努めており、わかりやすい紙面・多くの人に読んでもらいたいと響く内容です。それなりに1枚当たりの単価も多くかかっていました。大いに参考にしていきたいと思いました。また紙面づくりにかける先輩議員の思いに感動しました。

一方多摩市では、常任委員会ではなく各会派からの参加議員で紙面作りをしていました。そのような状況でありながら、議会改革なども取り入れ、しっかりとした紙面作りとなっていました。制作には1人の経験議員がおられたことが強みと感じました。

電通での研修は、ディスカッション方式でのやりとりで、何を指すのか具体的に討議しました。まず真似をして、読んでいただくための目的をさらに磨いて、紙面づくりを考えていきたいと思います。

以上で、広報広聴常任委員会の行政視察報告とします。

霧島市議会議長 下深迫 孝二 殿

広報広聴常任委員会
委員長 徳田 修和
副委員長 前川原正人
委員 山田 龍治
委員 松枝 正浩
委員 川窪 幸治
委員 愛甲 信雄
委員 阿多 己清
委員 有村 隆志